

# VDR 消費者情報

## 特集：「在宅勤務時の行動変化③」

### < 調査の概要 >

- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：2020年4月14日～15日
- 調査対象：一都三県、男女20～49歳  
職業は会社員のみ
- 調査数：633s

	計	20代	30代	40代
男性	383	117	139	127
女性	250	83	92	75
計	633	200	231	202 <sup>(s)</sup>

令和2年5月8日発行（第44号）  
 発行者：坂上真介 編集：西野達也  
 東京都品川区西五反田8-3-16  
 西五反田8丁目ビル4F  
 株式会社市場開発研究所  
 連絡先：Tel：03-5436-6222  
 Fax：03-5436-6232

## ● 前回のおさらいと今回の分析について

まず、前回発行の情報誌の分析結果を簡単におさらいします。前回発行の情報誌では、“同居家族別”に『情報接触』、『その他行動』の2カテゴリーについて在宅勤務中の行動変化について分析しました。そこで見てきた傾向は、2点あります。1点目は、配偶者の有無で違いが見られたことです。2点目は、女性一人暮らし世帯は「テイクアウト・出前の利用」の減少率が21.9%と高くなったことです。やはり、女性一人暮らし世帯は“自炊をする人”が増加しているのでしょうか。

そこで、本情報誌では『家事全般』、『食事』の2カテゴリーに加え、それらと関連性の高い『その他行動』を“同居家族別”に分析し、在宅勤務中の行動変化を明らかにしました。果たして、女性一人暮らし世帯は自炊をする人が増えているのでしょうか。また、他にはどのような傾向や違いが見られるのでしょうか。今回もご自身の現状と照らし合わせながらご覧いただくと、本調査結果をより身近に感じていただけるのではないかと考えております。

## ●【再掲】在宅勤務中の行動変化\_『家事全般』、『食事』の2カテゴリーTOP3

■ 在宅勤務中の行動変化<全体>

※各カテゴリーごとに降順ソート  
 ※上位3項目のみ抜粋

	家事全般	増加率
1位	育児の時間*1	50.6%
2位	料理を作る回数	50.0%
3位	食器洗いの量	43.9%

	家事全般	減少率
1位	洗濯をする量	13.1%
2位	育児の時間*1	8.2%
3位	掃除（トイレ）の頻度	6.1%

	食事	増加率
1位	家で食事にかかる時間	43.6%
2位	菓子類の喫食	41.5%
3位	飲酒の量	21.3%

	食事	減少率
1位	飲酒の量	17.0%
2位	菓子類の喫食	10.0%
3位	朝食を摂る回数	8.5%

\*1:子ども同居している方のみ聴取

さて、“同居家族別”に上記2カテゴリーとそれらと関連性の高い『その他行動』を分析すると、

在宅勤務中の行動変化にどのような傾向や違いが見られるのでしょうか？

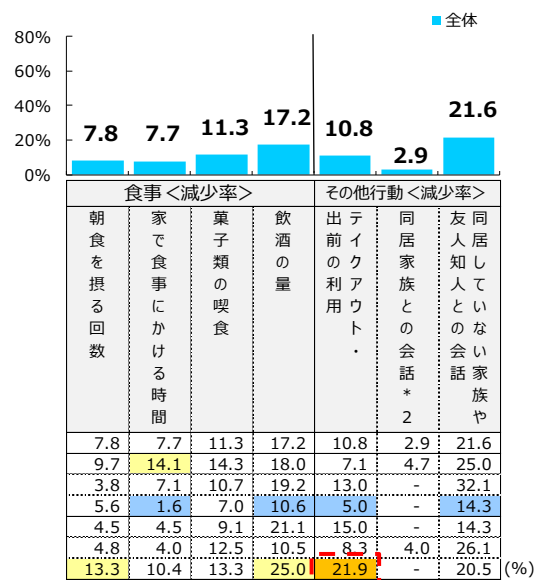
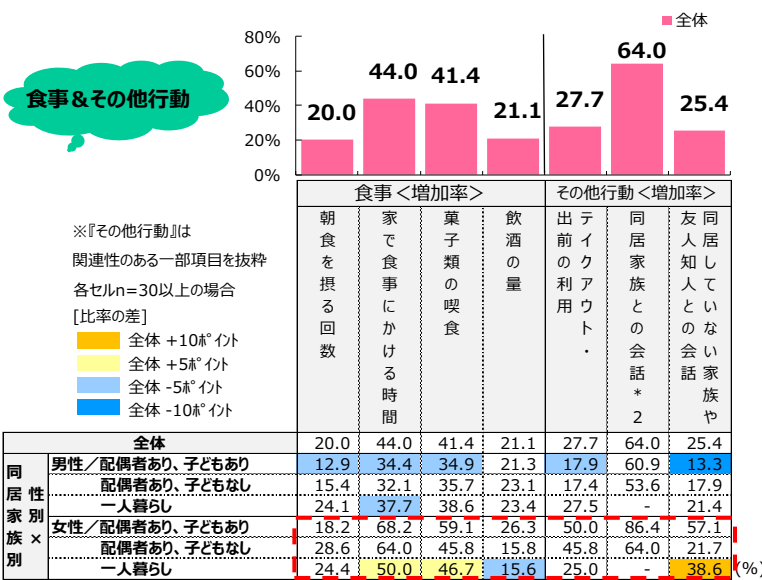
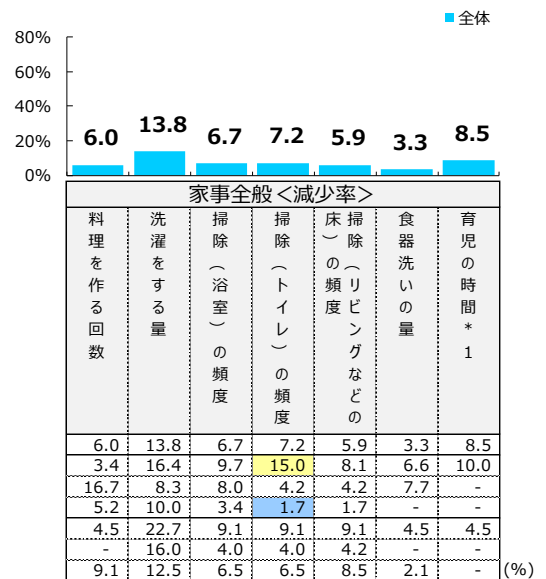
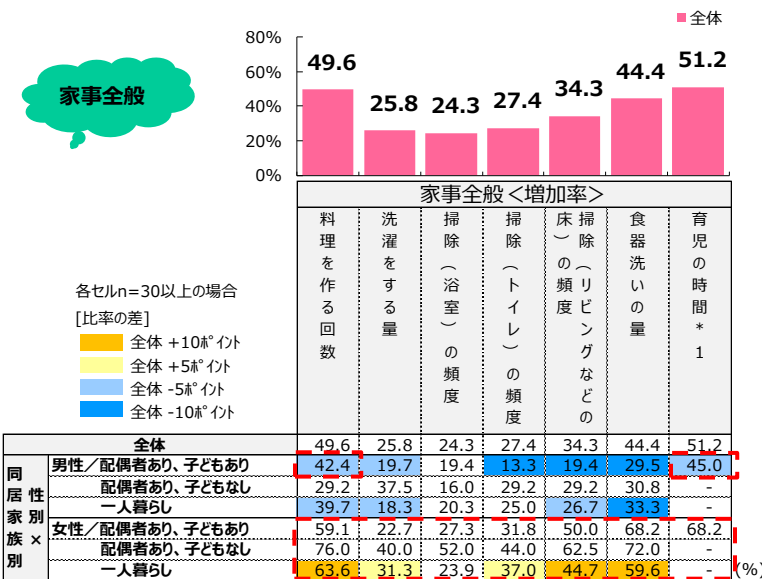
皆様もどのような傾向や違いが見られるか、ご想像ください！！！！

# 既婚女性の『家事』への負担が増えているようです！！

■ あなたの在宅勤務中の行動についてお知らせください。(それぞれひとつずつ)

- それでは、“同居家族別”に『家事全般』と『食事』に加え、それらと関連性の高い『その他行動』の行動変化について確認しましょう。
- まず、全体的な傾向として、概ね女性の増加率が男性を上回る結果となりました。特に、『家事全般』については差が大きくなります。家事シェアの機会があるはずの既婚者においても、男性の『家事』への参加率は乏しく、却って女性既婚者の負担が増加していることが本調査結果から見てきます。なお、子どもあり世帯では男性は「料理」、「育児」で増加率が4割台と、家庭内ワークへの参加が進んだ様子も伺えますが、女性の増加率はさらに高く、意識や行動にギャップがありそうです。子どもの有無に関わらず、在宅勤務を機会に各家庭でどのような家事分担が望ましいかコミュニケーションを取ることで、男性の家庭内ワークへの参加が一步進むのではないのでしょうか。
- 続いて、女性に焦点を当てて見ていきます。女性子どもあり世帯において、家庭内ワークの負担が増加したことが影響してか、「家で食事にかける時間」、「菓子類の喫食」、「飲酒の量」、「同居していない家族や友人知人との会話」の増加率が他の女性層より高くなります。食事や飲酒、会話をするのがストレス発散の手段になっているようです。また、「テイクアウト・出前の利用」も最も高く、『家事』の負担を少しでも軽減しようと工夫している様子も見られます。
- 最後に、女性一人暮らし世帯は、“自炊をする人”が増えているか確認しましょう。結果を見ると、「料理を作る回数」の増加率は63.6%と、“自炊をする人”が増加しました。SNSでハッシュタグ、“おうちごはん”等が流行っていることもあり、それが本調査結果に結び付いたのではないかと考えます。(「SNSの閲覧時間」の増加率は50.0%。)

■ 在宅勤務中の行動変化<性別×同居家族別> ※在宅勤務実施者かつ各行動を普段から行っている方ベース



\*1:子ども同居している方のみ聴取 \*2:同居家族がいる方に聴取

## 次回のお知らせ

本情報誌では、“同居家族別”に『家事全般』と『食事』に加え、それらと関連性の高い『その他行動』の在宅勤務中の行動変化を見てきました。皆様いかがでしたでしょうか？次回は、『身だしなみ』について在宅勤務中の行動変化を分析していきます。どうぞご期待ください！！

(営業企画部/西野 nishino@mdr-j.co.jp)